

令和6年度 「信濃ひまわり幼稚園 自己点検評価・関係者評価」

1. 令和6年度の活動目標

【園の目標】

「主体的・対話的な遊びを通して非認知能力を育てる」～指示の少ない保育を目指す～

2. 自己点検

[評価の基準]

A <十分達成できた> 優れた（水準・内容・環境・対応）である。

B <概ね達成できた> 妥当な（水準・内容・環境・対応）である。

C <あまり達成できなかった> やや不十分な（水準・内容・環境・対応）で改善を要す。

D <ほとんど達成できなかった> 不十分な（水準・内容・環境・対応）であり一層の改善を要す。

(R07.03.31)

評価項目	自己点検評価の内容	自己評価	関係者評価
I. 保育の計画性 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 園の建学精神、教育理念、教育方針の理解	A	A
	2 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領の理解	A	
	3 教育・保育課程の編成と評価	A	
	4 保育計画の作成	A	
	5 環境の構成	A	
	6 保育と計画の評価・反省	A	
II. 保育の在り方、幼児への対応 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 健康と安全への配慮	A	A
	2 幼児のみとりと理解	A	
	3 指導と関わり	A	
	4 保育者同士の協力連携	A	
III. 保育者としての資質や能力・良識・適正 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 専門家としての能力・良識・義務	A	A
	2 組織の一員としての在り方	A	
	3 まわりを感じ取れる感性・アンテナ	A	
IV. 保護者への対応・守秘義務 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 情報の発信と受信	A	A
	2 協力と支援	A	
	3 守秘義務の遵守	A	
	4 対応上のマナー、良識	A	
	5 クレームへの対処の仕方	A	
V. 地域の自然や社会とのかかわり 自己評価 (B) 関係者評価 (B)	1 地域の自然、人々とのかかわり	A	B
	2 小学校との連携	B	
	3 地域の特性を生かした保育の展開	B	
VI. 保育者の専門性に関する研修と研究への意	1 研修・研究への意欲・態度	A	A
	2 保育者としての専門性に関する研修・研究	A	

欲・態度 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	3 遊具、教材に関する専門性の向上	A	
	4 園内の環境に関する専門性の向上	A	
	5 今日的課題（障害児の危機管理他）に関する専門性の向上	A	
	6 自らを高めるための学習	A	
Ⅶ. 保育の在り方、3歳未満児への対応 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 健康と安全への配慮	A	A
	2 乳幼児のみとりと理解	A	
	3 指導と援助	A	
	4 保育者同士の協力・連携	A	
Ⅷ. 地域における子育て支援 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	1 自園の子育て支援事業の理解	A	A
	2 環境設定	A	
	3 支援の姿勢	A	
	4 育児相談	A	
	5 支援の評価・反省	B	
Ⅸ. 年間目標 自己評価 (B) 関係者評価 (B)	1 目標の設定と実行	A	A
総 合 自己評価 (A) 関係者評価 (A)	全体的に、保育の計画性、保育者の資質、保護者対応、地域との関わり、専門性の向上など、さまざまな側面での努力が見られますが、今後はこれらの課題に対する改善が求められます。特に、職員間の連携強化や、個別支援体制の充実が重要な課題となっています。		

※134 項目の評価割合 A 評価 47.43% B 評価 42.40% C 評価 9.10% D 評価 1.00%

3. 保護者評価

[評価の基準]

- A <よくできている、よかった、賛成>
- B <どちらかというと出来ている、賛成>
- C <どちらかというと出来ていない、よくなかった>
- D <できていない、反対>

Q1 認定区分(回答者)	1 号	2 号標準	2 号短時間	3 号標準	3 号短時間
	18 人(41.9%)	9 人(20.9%)	6 人(14.0%)	6 人(14.0%)	4 人(9.3%)

(%)

Q2 園の教育方針	A 61.4	B 38.6	C 0.0	D 0.0
Q3 今年 の 目標 の 設定 内容 ・ 取組 ・ 成果 について	A 53.5	B 44.2	C 2.3	D 0.0
Q4 園 の 「 教育 」 の 内容 について	A 57.1	B 42.9	C 0.0	D 0.0
Q5 教職員 の お子さま へ の 対応 について	A 60.9	B 37.0	C 2.2	D 0.0
Q6 教職員 の 保護者さま へ の 対応 について	A 58.7	B 32.6	C 8.7	D 0.0
Q7 園 の 施設 ・ 設備 について	A 46.7	B 51.1	C 2.2	D 0.0
Q8 「 お便り 」 「 メール 」 など 情報 発信 について	A 65.2	B 34.8	C 0.0	D 0.0
Q9 感染症 へ の 対応 について	A 51.1	B 46.7	C 2.2	D 0.0

Q10 給食について	A 82.2	B 15.6	C 2.2	D 0.0
Q11 課外教室について	A 70.0	B 30.0	C 0.0	D 0.0
Q12 写真のネット販売について	A 52.2	B 32.6	C 15.0	D 0.0
Q16 本園を選んで良かったと思いますか	A 80.0	B 20.0	C 0.0	D 0.0

※Q13, Q14, Q15 について複数の選択肢のため省略してあります。

4. 関係者評価

実施日：令和7年3月12日（水） 10：00 から

I. 保育の計画性 A

週案・月案を丁寧に立て、行事に向けた打ち合わせも着実に行われており、保育全体には一定の計画性が感じられる。日々の活動を見通した保育が行われている点は評価できる。一方で、環境設定の不十分さや、急な変更への対応に課題が見られ、計画と実践のバランスにおいては改善の余地がある。また、職員間での相談や反省は行われているものの、保育の共通理解や見通しを共有するための時間や方法の確保が今後の課題である。特に異年齢児交流については、機会が限られている現状に対して、計画的な環境づくりや自由な行き来を促す保育の工夫が求められている。全体として、計画性を基盤にしつつ、柔軟性や連携を高める取り組みが望まれる。

II. 保育の在り方、幼児への対応 A

子ども一人ひとりの発達や性格を理解し、丁寧に関わろうとする姿勢が多く見られた。目を見て話す、耳を傾ける、褒めて励ますなど、基本的な関わりを大切にしようとする意識が高まりつつある。登園時の健康状態への配慮や体調不良時の迅速な対応も適切に行われている。一方、支援を要する子どもへの個別対応については、職員配置や人員体制の課題から十分な関わりが難しい場面も見られ、加配の必要性や体制の見直しが求められる。また、正規職員とパート職員との連携不足や、在園児に関する情報共有の不十分さも課題として挙げられる。今後は、全体への目配りを保ちつつ、個別支援の充実を図る環境づくりと、職員間での共通理解の深化が必要である。

III. 保育者としての資質や能力・良識・適正 A

保育者として基本的なマナーである挨拶や清潔感のある身だしなみ、保護者への丁寧な対応が見られ、日々の姿勢に良識をもって取り組もうとする意識が感じられる。また、提出物の期限厳守や早めの準備といった業務への計画性も確認されている。一方で、社会情勢や保育に関する専門知識の習得は十分とは言えず、今後の自己研鑽が求められる。研修や読書による学びへの意欲も見られ、これを今後の成長につなげていくことが期待される。さらに、シフト勤務への不公平感や業務負担の偏りに関する課題も指摘されており、保育者全体が責任感をもって協力し合う姿勢が求められる。苦手な業務にも前向きに取り組む姿勢や、必要な相談・報告を適切に行う様子から、資質向上への意欲は高く評価される。

IV. 保護者への対応・守秘義務 A

保護者対応においては、丁寧で分かりやすい説明を心がけ、言葉遣いや表現に配慮することで信頼関係の構築に努めている。対応に苦手意識を持つ職員も見られるが、前向きな努力と慎重な対応がなされている点は評価できる。また、保育参加の場の活用や、秋にも面談を設ける提案など、保護者との関わりを深めようとする意識も見られる。一方で、連絡帳への記入が少ない、養育方針の把握が難しいといった課題もあり、双方向のコミュニケーションの促進が今後の課題である。園だよりやドキュメンテーションを活用し、子どもの様子を伝える工夫がなされており、写真掲載にも公平性への配慮が見られる。守秘義務に関しては、個人情報保護の意識が高く、職員室内での会話への配慮も含めて誠実な対応がなされている。

V. 地域の自然や社会とのかかわり B

感染症(コロナ等)の影響により、地域との交流機会が減少し、デイサービス訪問や地域行事、小学生との交流などが中止されていることを残念に思う声が多い。一方で、りんご農家との交流や地域散歩、野菜栽培など、地域資源を活かした活動が継続されており、食育や地域への関心を高める取り組みとして高く評価される。また、中学生の職場体験や実習生の受け入れを通じて、教育的なつながりも一部で維持されている。今後は、保幼小連携の充実や、高齢者との交流の再開など、地域とのかかわりを深める機会の再構築が求められる。地域の方へのあいさつや笑顔での対応を大切にする姿勢も定着しており、園が地域に親しまれる存在としてあり続けることが期待される。

VI. 保育者の専門性に関する研修と研究への意欲・態度 A

多くの職員が専門性の向上に意欲を持ち、研修や学びの場への参加に前向きな姿勢が見られる。研修前の事前資料確認や、書籍による自己研鑽、ボランティア活動への参加など、主体的な学びを進めようとする職員もいる。一方で、「関心はあっても日々の業務に追われて行動に移せていない」といった声もあり、時間や費用、環境といった外的要因が学びの障壁になっている現状もある。園の研修システム導入については評価されているものの、「もっと早く導入してほしかった」や「自己負担が多い」といった意見も寄せられており、職員の学びを支える体制の整備が今後の課題である。

VII. 保育の在り方、3歳未満児への対応 A

子ども一人ひとりの姿に寄り添う保育が日々実践されており、特に3歳未満児に対しては、生活リズムの安定や愛着形成を意識した丁寧な関わりが見られる。担当制保育においても、子どもの発達段階や気持ちの変化に応じた柔軟な対応がなされ、安心して過ごせる環境が整っている。また、保育室の環境構成や遊具の選定にも配慮が見られ、子どもの主体的な活動が促されている点が評価される。一方で、記録や振り返りの共有が職員間で十分でないこともあり、個々の関わりがチームとして一貫性をもって展開されるための仕組みづくりが今後の課題である。引き続き、保育の質の維持・向上に向けた取り組みと、職員の専

門性の育成が求められる。

VIII. 地域における子育て支援 A

園庭開放や未就園児対象のイベントなど、地域に開かれた園づくりを意識した子育て支援が継続的に行われており、参加者からも好評を得ている。育児相談や親子の交流の機会を提供することで、地域における子育て家庭の孤立防止にも一定の効果を上げている。地域の保健師や行政機関との連携も図られ、困難を抱える家庭への支援の橋渡し役としての機能も果たしている。一方で、継続的な地域ニーズの把握と、それに応じた支援内容の更新が求められる時期に差ししかかっており、多様化する子育て環境への対応力をさらに高めていくことが今後の課題である。園全体として地域に根差した子育て支援の在り方を再確認し、園の特性を活かした取り組みが期待される。

IX. 年間目標 A

年間目標として掲げた「子どもの主体性を育み、協働する保育の実践」に対して、各クラス・各職員が意識を共有しながら日々の保育に取り組む様子が見られた。保育の振り返りや記録の中でも、子ども自身の気づきや表現を大切にする視点が反映されており、目標に対する理解と実践が進んでいると評価できる。園内研修や会議を通じて目標の浸透を図る取り組みも行われたが、実践内容がやや属人的になる傾向もあり、チームとして目標に向かう一体感の強化が今後の課題となる。年間を通じた取り組みの振り返りを全職員で行い、次年度への改善点や継続すべき点を明確にすることで、目標達成の確度を高めていくことが求められる。

[総合判断] A

園全体として、子ども一人ひとりに寄り添い、安心・安全な保育環境を提供するという基本姿勢が職員間に共有されており、保育実践の質は概ね良好である。特に、3歳未満児への関わりや地域との連携においては、丁寧かつ意欲的な取り組みが見られ、地域に信頼される園づくりが進んでいる。また、職員同士の関係も安定しており、協力体制の中で保育が進められている点は評価される。ただし、一部に情報共有の不足や指導・育成の不明瞭さ、保育実践の属人化といった課題も残っており、今後はチームとしての一体感や協働の仕組みを強化することが求められる。引き続き、子ども・保護者・地域にとって安心と信頼を提供できる園運営を目指し、改善と工夫を重ねていくことが望まれる。

[保護者の総合評価]

信濃ひまわり幼稚園では、子どもたちが毎日楽しそうに通園しており、保護者からも高い評価を受けている。先生方が明るく熱心で、親身に対応しており、子どもたちの個性や成長を大切に見守っていることが保護者の安心感に繋がっている。また、園長先生が毎日門に立つ姿や、子どもたちの元気な様子が印象的で、保護者同士の温かい交流も見られる。教育内容や園外活動なども充実しており、子どもたちが楽しく学べる環境が整っていることに感謝の声が多い。